

東南海・南海地震を想定

バケツリレーで消火訓練にあたる参加者(美濃山小学校)



美濃山地区・くすのき地区

防災訓練

AED使い応急処置 バケツリレーで消火活動



応急処置の胸骨圧迫を行う参加者(くすのき小学校)

東日本大震災から6年。地震や火災など、予期せぬ災害に備え、地域住民への防災意識の向上を目的とした防災訓練が、くすのき地区で3月5日、美濃山地区で12日に行われました。

同訓練は東南海・南海地震などの大規模地震の発生を想定して実施。毎年、各地の自治連合会が主催し、両地区合わせて約1000人が参加しました。防災行政無線が対象地域に流れると、参加者たちは避難場所となる小学校に集合。訓練では、消防隊員や消防団員らの説明を受けながら、AED(自動体外式除細動器)を使った応急処置や救助担架で負傷者の搬送、起震車で過去に起きた大地震の揺れなどを体験。また、くすのき地区では、地震発生時に、揺れが収まるまで姿勢を低くし、周囲の物から手で頭と体を守る、シェイクアウト訓練を実施。美濃山地区では、水槽からくんだ水をバケツリレーでつなぐ消火訓練や炊き出し訓練を行うなど、いろいろな活動が行われるべき行動が確認されました。

一斉にスタートし、坂を駆ける両校の児童たち



八幡京田辺インター線 駆け抜けた 全線開通前に「1000人マラソン大会」

城陽～八幡間の新名神高速道路に接続する府道八幡京田辺インター線の全線開通を前に、2月22日、工事説明会と「1000人マラソン大会」が行われ、美濃山小学校と有都小学校の児童949人が同インター線を駆け抜けました。

美濃山地域の周知と将来インター線を利用する児童たちの思い出作りにと、山城北土木事務所と市が両校を招き、男山東中学校校区学校支援地域本部の協力のもと実施した同大会。発着点の美濃山をスタートした児童たちは、沿道

の保護者らの声援を受けながら、1・2年生は1km、3・4年生は2km、5・6年生は2.5kmのコースに挑戦しました。

スタート地点の坂を駆け上がり少し進むと、同インター線からの風景が一望。その眺めを見ながら、児童たちは完成したばかりの道路を走る貴重な時間を楽しんでいました。

美濃山小学校6年の井上達也君(12)は「広々として走りやすく、普段見られない景色を見ることができた」と笑顔で話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

お茶の作法 上手に披露

山鳩保育園児が茶会



とへ抹茶や茶菓子を運びました。また、園児も保護者と並び茶席で一服。茶碗を2度回したあと抹茶を味わい、飲み口を指でぬぐい、懐紙で指をふくなど、けいこで身に付けたお茶の作法を上手に披露する姿を保護者らが、にこやかに見つめていました。当日は、男山第二中学校の代表生徒16人も招待され、園児から振る舞われた抹茶や茶菓子を味わい、茶道を通じた交流を深めました。

保護者らの前でお茶の作法を披露する園児

さくらであい館 オープン

笑顔満開、憩いの場

淀川河川公園背割堤地区に3月25日、淀川三川合流の拠点となる「淀川三川合流域 さくらであい館」がオープンしました。

同館は、周辺地域間の交流や地域振興、観光周遊の促進を目的に国が設置。360度の景色を楽しめる高さ約28mの展望塔や周辺地域の観光情報を発信するスペースなどが設けられており、背割堤を訪れる観光客やサイクリストの憩いの場として活用され

高さ28mの展望塔 360度絶景楽しめる

▼展望塔からの景色を楽しむ来場者たち



ます。

また、同館のオープンを記念して、26日までの2日間、「淀川三川・春フェスタ2017」が開催されました。両日合わせ約1万3000人が来場し、ジャズライブを聴きながら周辺市町の店舗が出した名物料理を味わったり、スポーツ自転車の試乗やロープを使った木登り(ツリーイング)を体験したりと、春の背割堤を満喫していました。

展望塔を訪れた瀬野卓男さん(75)は、「淀川の流れがよく分かります。とても眺めが良いので、桜が満開になる頃に友人と景色を楽しみたいです」と笑顔で話していました。